

中学校 3学年 分散登校中におけるオンライン授業での道徳実践

新座市立第二中学校 関口 麻理子

【実践報告の概要】

分散登校になり、クラスの半数が教室、半数がオンラインでの授業という形態での道徳を行い、学級での学びを保つためにICTを活用し実践した。教材理解を補うために、3分弱の動画を個人で視聴した後、教科書の話を読み音声を一斉傾聴した。その後、オンライン生徒を中心に考えや意見を聞いていき、教室の生徒とのやり取りで話し合いを広げ深めていった。教科書に入る前の動画視聴により、生徒の第二次世界大戦中のユダヤ人が置かれた状況を一定の理解を図ることができ、題材に向き合う姿勢ができたことは大きな成果であった。

【取組の具体】

「命のトランジットビザ」C-(18)国際理解、国際貢献
日本文教出版

本題材では杉原千畝の行動を通して、世界平和や人類の幸福を大切に思う心について考えるねらいがある。杉原のような行動をとれるようになりたいという考えではなく、生きていく上で何を大切にしたいかを考えさせたい。

1. 共通理解をはかるため動画視聴

第二次世界大戦禍でユダヤ人がどのような状況に置かれていたのか、クラス全体の共通理解のために2分の動画を個人で視聴する。

2. 教科書を読む

杉原が日本政府の意向とは反するビザを発給するまでの葛藤や退去するその瞬間までビザを書き続けた行動など「命のトランジットビザ」を読む。オンラインの生徒と教室にいる生徒同時に範読を聞くことを考え、画面配信で音声による音読を聞く。

ここでは、みんなで一緒に考えていく場を作っていきたいと考え、一斉での傾聴とした。

3. 話し合い活動

日本政府の思いに沿っているとは言えない杉原の決断は、人道主義や博愛の精神を第一に考えた行動である。日本政府側の視点では、杉原の取った行動は国の意に反するものであり、ユダヤ人側からの視点で考えれば命を救ってくれたという相反する価値が見えてくる。

4. 振り返り

友達の意見を聞いたり、話し合ったりして最終的な自分の考えをノートに書きまとめる。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組

「アウシュヴィッツで何があったのか？解放から75年－BBC ニュース」

○社会情勢やドイツの支配とユダヤ人の迫害について3分弱で分かりやすく概要を知ることができる。

【本実践における工夫点】

補助資料としての動画

クラス全体で共通理解をした上で教材の話に入りたかったため、動画を視聴した。一人ひとりが命について向き合って欲しかったので、個人視聴にした。学びの雰囲気作りになる。

オンライン生徒と教室の生徒のつながり

動画視聴で気持ちを整え、一斉に教科書の話に入って行く流れを作った。個人での傾聴でなく、一斉にした理由は、オンライン生徒と教室の生徒との場と時を共有するというねらいがある。

【本実践の成果と課題】

○各自で補助資料としての動画を視聴したことで、教科書の内容を深く感じ取ることができ、いくつかの視点での意見が出ることに繋がった。

○動画視聴により、みんなが気持ちを整え、同じ土俵に登ることができ、オンラインでも学びの雰囲気を保つことが出来た。

●オンライン生徒が黒板を明確に把握できない状況だったため、板書をせずに展開した。スライド等で意見を整理できる場を工夫していきたい。